

# 第1章 調査概要

## 1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

## 2. 調査実施内容

### ① 事業系ごみ

- 【実施日】 令和元年9月19日（木）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 200.1kg
- 【気温（平均）】 16.3℃

### ② 家庭系雑がみ

- 【実施日】 令和元年9月20日（金）
- 【調査場所】 市内古紙再生業者
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 247.6kg
- 【気温（平均）】 15.8℃

## 3. 調査手順

### （1）試料の回収

#### ① 事業系可燃ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

#### ② 家庭系雑がみ

古紙再生業者へ持ち込まれた資源物を施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

### （2）分類及び重量の記録

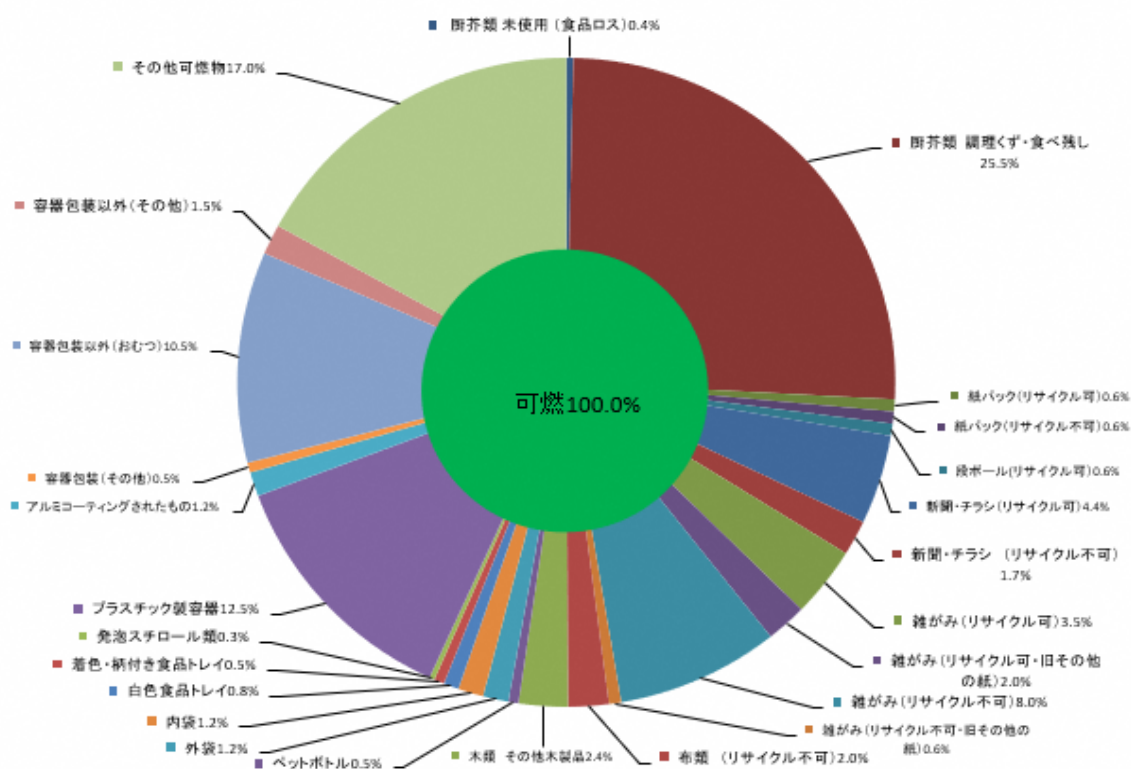
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

## 第2章 調査結果

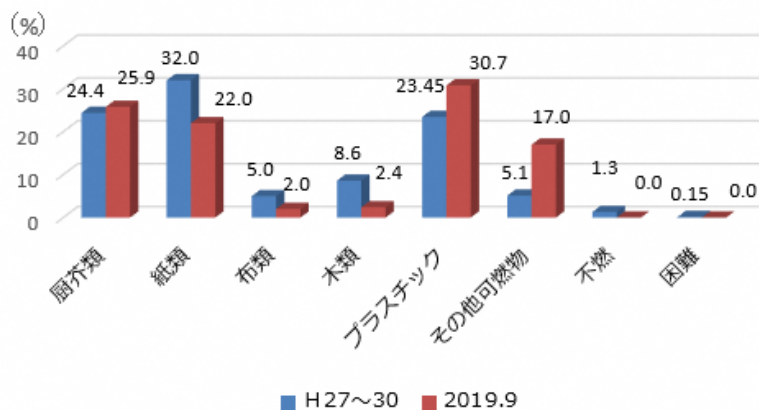
### ① 事業系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類」(30.7%)、「厨芥類」(25.9%)、「紙類」(22.0%)、「その他可燃物類」(17.0%)、の4種であり、全体の約95.6%を占めていた。個別に見ると、厨芥類(生ごみ)「調理くず・食べ残し」(25.5%)、その他可燃物(17.0%)、プラスチック「プラスチック製容器」(12.5%)、プラスチック「おむつ」(10.5%)の割合が高かった。



### 事業系可燃ごみの過年度との比較



## ② 家庭系雑がみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。  
割合が高かったものは「雑がみ（リサイクル可）」（47.4%）、「雑がみ（リサイクル可・旧その他の紙）」（25.3%）、「新聞・チラシ（リサイクル可）」（25.3%）の3種で、全体の98.0%を占めていた。

